母とわたしのリップの約束

和乃　ツヅリ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
母とわたしのリップの約束

【Ｎコード】
Ｎ０６２０Ｗ

【作者名】
和乃　ツヅリ

【あらすじ】
詩です。母親と娘の何気ない日常をリップに絡めて綴ってます。母親は娘に色々してくれます。娘はそのことをどう受け止めているのか、母娘の形は様々ですが、この母娘の場合は……。

（前書き）

母娘の日常の中の大切な『普通の幸せ』の記憶を綴ってみました。
※気に入らない方はどうぞ回れ右、でお願いします。

おチビのわたしがはじめてルージュを塗ったとき
口裂け女みたいになっちゃった
そのままママのよそ行きの服とアクセサリーをジャラジャラつけて
鏡の前でファッションショー
見つけたママは爆笑しながらデコピン1回
「あんたにはまだ早い」って
ティッシュで落としてくれたっけ

小学5年のわたしに
「パパにはひみつよ」って
色付きリップをくれたよね
鏡に向かってもらったリップを付けるたびに
ほんのり色づいたくちびるが
ちょっぴり大人に近づけたかんじで嬉しかったのを覚えてる

中学卒業したときに
「高校入学おめでとう」って
淡いピンクのルージュを手渡しされて
少しして初彼との初デートにつけていったら
「似合う」って、耳を赤くしながら褒めてくれたから
だからこれは名誉あるお気に入りルージュ第1号

社会人になってしばらく
ついに彼がプロポーズ

ＹＥＳと応えた口にはたまたま貰った赤いルージュ
「お父さんがプロポーズしてくれたときにつけてた色なのよ」って
ちょっと照れながら贈ってくれたものだった
「これで親子２代になったわね」って
２人して何だかこそばゆかった報告タイム

そして今日は花嫁控え室で母がとっておきの貝紅で
「最高の出来」って
微笑んでひいてくれたわ
そんな母と指切りひとつ
「わたしに娘ができたならおんなじことをするから」と

これが母とわたしのリップのつぶやき
これが母とわたしのリップの約束

（後書き）

お店でルージュを選んでいる時にふと、頭に浮かんだ1シーンを膨らませて書いてみました。誤字・脱字等ありましたらお知らせください。読んでいただきありがとうございます。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0620w/

母とわたしのリップの約束

2011年10月9日15時12分発行